

来ぶらり 21

イタリアからの亡命者で、のちに大英博物館の館長となり(1856~66)、有名な円形閲覧室を完成するなど同館の改革に大きな足跡を残したアントニオ・パニッツィの名を知ったのは学生のころ、羽仁五郎の本を通してであった。パニッツィは、図書館と利用者との接点であるカウンター業務が図書館の第一線だ、という認識に立って、そこに第一級のライブラリアンの1人を配置する方針をとった、という趣旨のことが書いてあった。当時の私は目からウロコが落ちる思いでこれを読んだことを思い出す。昭和30年ごろのわが国の図書館にはまだ利用者本位の思想は乏しく、一般に役所などでも「窓口」業務は組織の周辺部に位置づけられ、ベテランの職員は窓口から遠い所に席を占めるのが当然という通念があり、私自身もこれに支配されていたのである。

宅とも図書館というものは、図書資料の保存施設であると同時にその利用施設である、という2つの方向性をもっている。欧米諸国の図書館は19世紀半ば以来、市民(読者層)の社会的成熟にともなって従来の資料保存・管理センターの考えから「利用中心」のそれへと大きく重点を移動させてきた。パニッツィの構想はこの転換を象徴するものであった。戦後の、とりわけ1960年代以降のわが国の図書館も基本的にこの方向をたどってきた。わが大学図書館もたしかり、である。

本学の図書館は、1963年、主として

図書館再考

図書館長 森永毅彦
(法学部教授・西洋政治思想史)

学生のための図書館として建てられた(『学習院百年史』第3編)。自学自習の場であるだけでなく自由に談話することもできるように広いロビーや屋上休憩室が配備された。以来「利用中心」の方向で多くの進展があった。開架図書室の拡充はその一例である。文献所在調査などのレファレンス・サービスも著しく増加した。「雑誌論文の探し方」「卒業論文の書き方」といったテーマでガイダンスを行う「来ぶらりセミナー」(1983年開設)や、学生諸君向けの本誌『来ぶらり』(1983年第1号発行)も、今ではすっかり定着した。

こうした利用者サービスは今後とも層充実してゆくことであろうが、前途にはなお若干の問題が横たわっている。ここでは次の1点だけを指摘しておきたい。「利用中心」ということは、図書館の姿勢の問題であると同時に、利用者の姿勢にかかわる事柄でもあるという自明の一事がそれである。

利用者サービスは本来利用者の要求の存在を前提として初めて意味をもつものである。この利用要求を欠くときは、利用者サービスは図書館活動の真に不可欠の要素として定着することを得ないのではなからうか。ちなみに、『大学生と図書館』(日本図書館研究会刊)という好個のガイドブックがあるが、その中で学生の目で所属大学の図書館を点検し直すようにすすめて、9つのチェック・ポイントを挙げていることを、参考までに付記しておきたい。

スタッフ紹介

——カウンターの個性豊かな面々



＊甲斐さんは参考室の書棚の一角に居を構え、おびただしい参考調査を一手に引き受けている。そのために書庫、研究室、本部などに変幻出沒も珍しくない。参考係として1年たったばかりだが、企業の資料室勤務の外、カウンター業務、洋書整理など10数年の経験と知識を生かし、難問・奇問も苦にしない。「来ぶらりセミナー」でもここ数年講師を務め、学生にもおなじみである。「甲斐」さんには何となく「風林火山」のイメージがある。

慎重で綿密、かつ柔軟性もあるが、血液型Aの特徴と言うが、思いこんだら深くのめり込む激しさも併せ持つからだ。彼女はまた読書家である。図書館で購入する新刊図書も一応全部目を通す。どんな本がどこにあるか、その都度頭に入れるのだ。本人は無趣味と言っているが、これは趣味以上のものかも知れない。ちなみに彼女も徒然の一刻に、「白玉の酒」を嗜むと耳にしている。(境記)



＊中山さんは、短大図書館に7年勤務し、大学図書館のカウンター業務を担当して4年のベテランである。セミロングのさらうとヘア、サンローランの眼鏡にスリムな体型、スーツから

ラフなスタイルまですべて着こなしてしまうスタイルリストである。

眼鏡の奥に光る目は、いついかなる状況でも、沈着、冷静さを失わず、その冷徹さ故に「クール」「非情」と感じるかもしれない。しかしそうではない。ポーカークフェイスに隠されたハートは常にホットで、返却期限に遅れた学生に対する厳しさなどは、限り無い愛情に裏打ちされているのである。

図書館で何か不明な事がある時は、中山さんに尋ねるとよい。そのあり余る知識と経験から、きつと適切な回答が得られるであろう。図書館の屋台骨をしっかりと支えている閲覧の重鎮なのである。

(入村記)

＊入村さんは職歴9年、カウンター業務4年の中堅どころ、年齢は本人未婚のため伏せておきます。興味のある方は個人的におたずねください。

現在、2階カウンターの責任者として、やさしく丁寧に皆さんと接してくれますので、何でも相談してください。

彼は高校時代、サッカーの選手として活躍し、スキーもかなりの腕前とが。

しかし、スポーツで鍛えた自慢の体も、ラッシュアワーの人波にはかなわなかったようで、胸骨にひびが入り病院通いをしたというのが、数カ月前の彼に関するニュースです。

なかなかの人気者で、本人の申告によると、バレンタインデーのチョコレートのはかなりのものだそうです。また、メカに強く、コンピューター時代のこれからの社会に生き残っていける人だといえます。(上野記)



＊上野さんは、若い人です。齢すでに生涯の半ばを過ぎているようですが、アフター5への執着と行動力は、どう見ても30歳代のそれです。加えて、お酒には減法強い。図書館でも1・2を

争うともつぱらの評判で、その方面ではちょっとした顔であるらしい。一見弱そうなスリムな体に隠されたこのエネルギーが、時として、仕事に注がれると、目をみはる手際の良さで、変身の妙を私たちに楽しませてくれます。また、酒席での気配りの経験を職場の人間関係にも生かし、誰も気にとめないような小事を論じさせると、他の追隨を許しません。

運用課で文献複写の係を担当して早1年。毎年増加する学内・外からの依頼にも、実に熱心に対応している様子から、たぶん、頼りになるお口さんとして、利用者からの信頼も厚いのではないのでしょうか？(中山記)



書物の風景

20

一十百千万億兆京垓……こうした数の呼び方は、いつごろから行われたのだろう。4けたで数の呼び方を変える日本独特の4けた進法は、『塵劫記』(初版は1627年刊)により一般に普及した。

『塵劫記』は江戸時代初期の和算書である。著者は吉田光由(1598～1677)。和算家毛利重

能に師事し、次に、治水工事で有名な外伯父にあたる角倉素庵に『算法統宗』(程大位著 1593年刊)を学んだ。光由はこの『算法統宗』を手本にして、当時の中国の数学理論を、わが国の事情に適應するように組み変えた。『塵劫記』は庶民を対象としているので、仮名書きであり、江戸全期を通じて、これに匹敵する通俗算数書を見なかったためにベストセラーとなった。そのため、内容を多少加除した『〇〇塵劫記』と称する異版が非常に多く、その種類は明治中期に至るまで数百種にも及んでいる。

光由自身も数回改訂をしているが、後世の

『塵劫記』の原型となったのは、1643年刊の大型3巻本である。その内容を見ると、上巻の最初に大数、小数の名があり、わが国の単位はこれによって固定した。次に、そろばんによる割り算の方法を図解し、さらに米・絹・木綿の売買、金・銀・銅3貨の交換等が記述されている。中巻は、面積、体積、租税、建築、土木等に関する計算など、下巻は、く継子

塵劫記 —近世庶民の数学入門書—



立〈くねずみ算〉などの数学遊戯等が載せられている。題材は日常生活の中から取られているが、内容的には数学的な1つの体系をもっているため、本書を使えば、算数の範囲の数学は容易に独習することができた。関孝和、貝原益軒等も本書で数学

を独習した。また、本書は、そろばんの全国的普及にも多大の貢献をした。

本学では、1631年刊大型3巻本の影印を数学科図書室で所蔵し、1643年版を底本とした岩波文庫本と、『萬延塵功記』(成毛正賢編 1860-61年刊)の影印を当館で所蔵している。

(和書係 石田京子)

肉と肉の一時、来ぶらりビデオ

59年度からのスタートで、図書館にも活字と映像の両極メディアが仲良く同居しました。ここ数年の急ピッチな普及で身近な存在になったビデオ、気軽に利用してみませんか。

3階ビデオコーナーには、400本を超えるテープを所蔵、魅力的な品ぞろえのビデオ・ライブラリーを心がけています。毎週火曜日は、個人、グループで好きなテープを選んで楽しめる自由鑑賞日(予約制)。また、月1回土曜日にはウィークエン

ド・シアターを企画、SF、アニメなどの話題作や名画を上映しています。漫画研究会製作の立看板も好評です。勉強や読書の合間のリフレッシュタイムにどうぞ。詳細は2階カウンターへ。

若い人の感覚と関心にこたえていきたいとはりきるスタッフ、活発にご利用をお待ちしています。放映内容についての希望も受け付けます。係までお寄せください。まだまだ、小数派のビデオですが、どうぞよろしく！ (洋書係 中島亜子)

『原寸巨匠名画大成』(全3巻 講談社 1983)を一般教育で購入。14-15世紀初期ルネサンスのイタリア絵画から20世紀前半までの西欧の巨匠約300人の小名画316点を、実際のサイズで収録。本牛皮の表紙、フランス製マール紙の見返し、限定2,000部、398,000円の豪華版。(当館所蔵 請求番号 723-42)

参考室あれこれ

参考室は図書館2階の目録室の奥にあり、ここで年間2,000件の事項調査や所蔵調査の質問を受けています。その内容も「月へ最初に降り立ったアームストロング船長のことばを原文で知りたい」から始まって、「川崎紫山『川路敬斎幕末三役』(春陽堂 明治30年)」という資料を探していますがどこにもありません」といった所蔵調査まで数多くあります。

ちなみに最初の質問の回答は「That's one small step for man, one giant leap for mankind」です。これは『News Week』July 28, '69の8ページのトップにありました。アポロ11号が月へ着陸した日付を調べ、雑誌・新聞等で探せま

す。次に、後者の質問を調べると、川崎紫山著「川路敬斎」とすると「幕末三役」が残ります。出版年からみて『国立国会図書館蔵明治期刊行図書目録』をみました。川崎紫山著『幕末三役』(春陽堂 明治30年)という本が出てきました。この第2編に「川路敬斎」が収録されていて、立教、国学院大学で所蔵していました。この場合は書名索引をひきましたが「川路敬斎」「幕末三役」と書名を2度探すことになります。

参考文献等から資料を求める時、それが図書か、図書の一部をなす論文か、雑誌論文か、注意が必要です。それによって探す手だても違いますし、時間も省けます。また文献を採録した資料名も明記しておきたいものです。

(参考係 甲斐静子)

レポート作成はこれでOK!



図書館では、毎年レポート・卒論・ゼミ論作成やクラブ活動に役立つよう、学生の皆さんを対象に、文献の探し方などのセミナーを企画しています。

昨年度のセミナーを紹介すると――▶5月〈文献の探し方シリーズ-和文・欧文編-〉 レポート作成に役立つ図書館の資料を、上手に使えるコツが覚えらる入門講座。▶6月〈学生のための論文作成法〉 講師に法学部の斉藤孝教授を迎え、実際に論文を書く時の心構え、テーマの選択、取材方法、論文の構成・表現方法などを分かりやすく解説していただいた課外講座。

▶11月〈やさしい本の仕立て方〉 パラパラなレポート類をオリジナル本に変身させる、和綴製本の実践講座。――と、盛りだくさんの内容で好評でした。今年度もいろいろと計画しましたので、皆さん、ふるって御参加下さい。(和書係 小林邦子)

お知らせ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。黒岩彰に始まり、伊藤みどり、橋本聖子に終わったカルガリーの感動の冬が過ぎ、いよいよ、みなさん一人一人が主役として輝く4年間の幕開けです。これから始まる学生生活で、みなさんなりの金メダルを、この目白キャンパスで手にしてください。

新年度にあたって、図書館を利用するために必要な情報をお知らせします。

○開館時間：平日8:50～18:30(土曜日16:30)。

夏休み、春休み中も開館しています。

○貸出冊数・期間：3冊、2週間。長期休暇中は冊数・期間とも枠が広がります。

○コピーをしたい時：2階カウンター横にコイン式のコピー機(セルフ・サービス)があります。小銭は各自でご用意ください。図書館で両替はできません。

○詳しくは「来ぶらりガイド」をご覧ください。

来ぶらり No21 1988年4月1日発行

発行責任者：森永毅彦 編集委員：工藤晶子 北村 誠

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221